

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
飯塚市中心地区

平成30年3月

福岡県飯塚市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1 地区内の居住人口の増加	人	3,696	3,820	3,717	確定	●	△	あり	3,713	H30年2月	△	—	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	大規模な低未利用地における再整備事業による住宅供給によって定住人口の増加が図られ、他地区の人口は減少しているにも関わらず、目標値は下回ったものの当該地区の減少傾向は下げ止まり微増に転じている。また、生活を支える都市機能の充実、整備された住宅への入居促進に効果があったと考えられる。
					見込み			なし						
指標2 中心商店街の歩行者通行量の増加	人/日	26,645	26,800	22,114	確定	●	△	あり	22,114	H29年3月	△	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	新たな住宅供給や都市機能施設の居住者・利用者等の増加や道路における安全・安心な歩行空間の整備による歩きやすさの向上は、歩行者数の減少抑制に一定の効果があったと考えられる。一方、集客力の高い店舗の誘致数が予定を下回ったことや個々の取組みが商店街の集客力向上にまで至らなかったことが目標値を下回る大きな要因となった。改善策として、平成30年度より空き店舗対策のための専門家の活用を予定している。
					見込み			なし						
指標3					確定			あり	H 年 月				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
					見込み			なし						
指標4					確定			あり	H 年 月				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
					見込み			なし						
指標5					確定			あり	H 年 月				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
					見込み			なし						

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1 JR新飯塚駅の利用者数	千人/年	2,937	/	3,170	確定		/	/	3,204	H29年3月	/	—	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	居住人口の増加や健康・交流、子育て支援、医療等新たな都市機能の導入などの事業実施の効果が波及し、JR新飯塚駅の利用者数の増加につながったと考えられる。
その他の数値指標2			/	/	確定		/	/	H 年 月	/			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3			/	/	確定		/	/	H 年 月	/			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
<p>・成果を持続させるために 行う方策</p>	<p>【買う】 豊かな暮らしを支える買い物の場としての個店の魅力向上と商店街のマネジメントの強化</p>	<p>・タウンマネージャーの設置と㈱まちづくり飯塚等との連携による総合マネジメント体制の構築</p>	<p>○空き店舗解消の取組みにより、空き店舗への新規出店もあり、計画期間前に比して空き店舗は減少している。</p> <p>○中心市街地に新たに整備された都市機能施設の利用者の回遊性をさらに高めるため、期待されるニーズを把握しながら、個店の魅力向上や集客力の高い店舗誘致に向けた取組みを推進し、ひいては商店街の魅力向上へとつなげていく必要がある。</p> <p>○健康をテーマとした商店街の特色づけや商品開発等に向けた取組みは行われたが、具体的な成果が現れるまでには一定の期間を要するため、取組みを継続して実施していく必要がある。</p>	
	<p>【ふれあう】 多様な世代の交流・賑わいの場の充実</p>	<p>・健康プラザ・街なか子育てひろば等と商店街が連携したウォーキング大会やイベント等の開催 ・飯塚緑道・街なか子育てひろば・健康プラザ等を活用した「まちなかイルミネーション大作戦」の開催</p>	<p>○街なか交流・健康ひろば(健康プラザ)、子育てプラザ(街なか子育てひろば)などの中心市街地に不足していた新たな都市機能施設の整備により、中心市街地(中心商店街)は買い物に加え、健康・交流、子育て支援など交流・賑わいの場としての機能が充実した。</p>	<p>○多様な都市機能による街の魅力向上の観点から、未実施である街なかギャラリーに代わる賑わいの創出の場を検討する必要がある。</p>
	<p>【住む】 街なか居住の一層の推進</p>	<p>・街なか定住の支援(助成等) ・中心市街地の空き家の活用の促進</p>	<p>○吉原町1番地区第一種市街地再開発事業、ダイマル跡地事業地区暮らし・にぎわい再生事業、及び飯塚本町東地区優良建築物等整備事業による、分譲マンションや賃貸マンションの整備、街なか定住促進策の実施等により、新たな居住者の定住が進んでいる。</p>	<p>○人口減少・高齢社会においては街なか居住の促進はコンパクトなまちづくりを推進するためにも重要な課題であることから、引き続き、街なか居住を促進していく必要がある。</p>
	<p>【利便性】 快適、便利な中心市街地としての環境の維持・改善</p>	<p>・街なか循環バス及びコミュニティバスの運行 ・中心市街地内の歩行空間整備の実施</p>	<p>○街なか循環バスの運行(試行)により、新飯塚駅や商店街など中心市街地内の施設間の回遊が容易になった。</p> <p>○コミュニティバスの運行により、予約乗合タクシーとコミュニティバスを乗り継ぐことにより、市内の各地域から公共交通で中心市街地を訪れることができるようになり、公共交通によるアクセス環境が向上した。</p> <p>○中心市街地内の道路における安全・安心な歩行空間の整備により、中心市街地内の徒歩による回遊環境が向上した。</p>	<p>○地域拠点と中心市街地を結ぶコミュニティバスの利用者数は増加してきているが、利便性向上や運行情報の提供など、さらなる利用者数の増加に向けて検討を行う必要がある。</p>
	<p>【買う】 豊かな暮らしを支える買い物の場としての個店の魅力向上と商店街のマネジメントの強化</p>	<p>・集客力の高い店舗の誘致 ・商工会議所等と連携した空き店舗解消支援事業の実施(空き店舗への誘致)</p>	<p>○空き店舗解消の取組みにより、空き店舗への新規出店もあり、計画期間前に比して空き店舗は減少している。</p> <p>○商店街の集客力を高めていくために、子育て支援、健康・交流に関わる施設との連携などによる集客イベントの継続や、それに合わせた商店街の営業時間延長、関連商品・サービスの提供などを実施していく必要がある。</p> <p>○空き店舗調査の結果を踏まえ、店舗誘致に加え、空き店舗を活用するとともに、新しく整備された都市機能施設を利用する来街者等のニーズを把握し、商店街に新たな魅力を創出することを検討する必要がある。</p> <p>○長期的には、地区内にある既存の商業施設等で老朽化が進んでいるものについて、その機能維持のあり方を検討する必要がある。</p> <p>○改善策として、平成30年度より空き店舗対策のための専門家の活用を予定している。</p>	

<p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策 	<p>【ふれあう】 多様な世代の交流・賑わいの場の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・街なか交流・健康ひろば(健幸プラザ)、子育てプラザ(街なか子育てひろば)などの中心市街地に不足していた新たな都市機能施設の整備 	<p>○中心市街地(中心商店街)は買い物に加え、健康・交流、子育て支援など交流・賑わいの場としての機能が充実した。</p>	<p>○子育て世代、高齢者の来街を促進する都市機能の整備・充実が進んでいるので、今後は市内に大学が立地する特性を生かして、大学生等若者の来街やまちづくりへの参画を促す都市機能整備や仕掛けづくりを行うことが望ましい。</p> <p>○健幸プラザ等と連携して、整備された飯塚緑道を活用し、健康づくりや賑わい創出の場としての利用促進を図ることを検討する必要がある。</p> <p>○市全体を俯瞰したなかで、中心拠点以外の地域拠点(旧町中心部)やコミュニティ拠点(地域コミュニティの活動拠点)におけるコミュニティづくりの強化と、中心拠点を含めたそれら拠点間の連携促進(都市機能の活用、補完等)を図ることで、まち全体の活力を増進させ、ひいては中心拠点の再生を図る必要がある。</p>
	<p>【住む】 街なか居住の一層の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低未利用地における再整備事業による住宅供給 	<p>○商店街による買い物環境に加え、子育て支援機能(街なか子育てひろば)、健康・交流機能(健幸プラザ)、医療機能(医療関連施設)など生活を支える都市機能の充実や地区内の安心・安全な歩行環境の整備が図られ、居住環境が向上した。</p> <p>○住宅供給により、定住人口の増加が図られた。</p>	<p>○街なかも含め、定住の促進＝都市機能の維持・増進を図るためには、市内の公的不動産の活用や再編を検討し、民間活力を活用し、機動的に居住を誘導する必要がある。</p>
	<p>【利便性】 快適、便利な中心市街地としての環境の維持・改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通利用ガイドを作成し、配布を行った。また公共交通利用方法説明会を開催し、利用促進の取り組みを行った。 	<p>○コミュニティ交通の利用者数は増加傾向となっているものの伸び悩んでいる。また公共交通利用者数の減少も進んでいるのが、現状であり、拠点同士を効率的につなげ、利用者の利便性向上を図ることが重要である。</p>	<p>○中心市街地における基盤は整備されたところであるが、中心市街地が本市における中心拠点としての役割を担い、交流とコミュニティを醸成していくためには、各地域における交通結節点及びその周辺の再生と、それら地域拠点とのネットワーク形成が必要である。</p> <p>○高齢者等が一体みできる憩いの空間の設置、歩行者通行における安全性の確保が必要である。</p>

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項